

科目名	環境学実験		英文表記	Environmentology Experiment		2017年2月23日		
科目コード	3408		教員名: 井口 亮・磯村 尚子・平良淳誠・玉城康智				作成	
技術職員名: 渡邊謙太								
対象学科/専攻コース			学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間
生物資源工学科			3年	必	履修	2単位	実験	前期
科目目標 【MCC目標】	基本的な物理化学的環境要因及び生物多様性の詳細と測定方法・定量評価について学び、説明できることを目標とする。 II-E							
総合評価	定期試験(期末)の30%+発表資料・レポ ート70%で `評価し、60%以上を合格とする。							
科目達成度目標	目標割合	科目達成度目標	達成度目標の評価方法	ルーブリック				
				理想的な到達レベル(優)	標準的な到達レベル(良)	最低限必要な到達レベル(可)	セルフチェック	
	50%	① 環境要因・生態系の各項目と人間生活との関連を理解することができる。	環境の物理的(温度等)、化学的(栄養塩類等)要因及び生物多様性に関する基礎知識を試験によって評価する。	環境影響評価・生物多様性評価の目的を理解し、実問題に対して適切な定性的、定量的手法を選択して実践することができる。	環境影響評価・生物多様性評価の目的を理解し、定性的、定量的手法を選択して実践することができる。	環境影響評価・生物多様性評価の目的を理解できる。		
	30%	② 環境要因・生物多様性の測定を行って結果をまとめることができる。	測定した環境要因・生物多様性に関するレポート課題によって評価する。	得られたデータの意味を理解し、定性的、定量的解析を柔軟に実践することができる。	得られたデータの意味を理解し、定性的、定量的解析を実践することができる。	得られたデータの意味を理解できる。		
	20%	③ 基準となる環境要因・生物多様性の値と比較することで結果の解釈ができ、解決策の提案ができる。	測定した環境要因・生物多様性のデータ解析をレポート課題によって評価する。	得られたデータの要点を理解して記述し、改善点を示すことができる。	得られたデータの要点を理解して記述することができる。	得られたデータの要点を理解できる。		
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4	<本科教育目標> (1) 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する			
評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合								
		目標との関連	定期試験	小テスト	レポート	その他(演習課題・発表・実技・成果物等)	総合評価	セルフチェック
評価項目			30	0	60	10	100	
基礎的理解		①②③	20		30		50	
応用力(実践・専門・融合)		①③	10		20	5	35	
社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL)		②			10	5	15	
主体的・継続的学修意欲		③					0	
授業概要、方針、履修上の注意	本授業では、身の回りの自然環境の基本的な分析項目について測定を行う。実験・実習を行う場合、原則として白衣を着用する。劇物等を扱う場合、原則として保護メガネ及び手袋を着用する。							
教科書・教材	教員自作プリント及びパワーポイントによるプレゼンテーション資料を用いる。							

